

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500094
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホームひまわりのたね
所在地	愛媛県伊予郡松前町昌農内347-1
自己評価作成日	平成 28年 3月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けています。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行うようにしています。利用者様とご家族様が笑顔でいられるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目を迎える事業所は、新旧住宅が混在する田園地帯に立地し、階下に小規模多機能型事業所がある。「焦らず、怒らず、諦めず」を理念に掲げ、大家族を目指したケアに努めている。地元住民の理解を得るため地道な努力を積み重ね、信頼関係を築いてきた。盆踊りや防災訓練、小学生の相撲大会等地元行事に利用者と共に参加し、散歩中の挨拶も欠かさないよう努めた結果、花や野菜の差し入れをしてくれる地域住民もできた。また、往診医と看護師の連携のもと2名の利用者の看取りを行い、職員にとっても貴重な体験になっている。現在も終末期にある利用者に家族と協力してケアを行っている。職員は自由に意見を出し合い、利用者が安心して今日を気持ち良く過ごし、笑ってもらえるよう支援に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりのたね

(ユニット名) 桃

記入者(管理者)

氏 名 松田加代子

評価完了日 平成 28年 3月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を基本に、優しい 介護の実践に努めている。昌農内の大家族としてリビ ングに掲示し確認できるようにしている。	
			(外部評価) 「焦らず・怒らず・諦めず」を理念に掲げ、「昌農内 の大家族」を目指したケアに努めている。職員は理念 を念頭に利用者が安心できるよう声かけを行い、今日 を気持ち良く過ごし、1日1回は笑えるよう支援に努 めている。また、利用者のペースに合わせて、諦めな い支援を続けることを大切にしている。理念は誰に も目につくように大きく書きリビングに掲示してい る。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 施設の行事に地域の方をお招きし、地域の行事には利 用者とスタッフが参加できるよう努めている。可能な 限り散歩に出るようにしており、地域の方との触れ合 いのきっかけとなれればと思っている。	
			(外部評価) 町内会に加入して、地域で行われる行事に積極的に参 加している。コミュニティ広場で行われる小学生の相 撲大会やどんど焼き、運動会、盆踊り、地区防災訓練 に参加し、地域の人々と交流している。また、クリス マスに幼稚園児が訪れて踊りを披露、区長さんがサン タ役を務めてくれた。事業所でも夏祭りを開催し、近 所にチラシを配布して参加してもらった。散歩時には 近所の人と挨拶を交わし切花をいただくこともある。	地元住民の理解を得るため地道な努力を積み重ね、信 頼関係を築いてきた実績は高く評価できる。当初は あった小学生との交流の再開や、地域のボランティア の申し出を具体的に実現していく取組みを行い、引き 続き多様な交流が継続することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の中でスタッフが利用者の介護を行うことが認知 症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議ではホームの活動報告と活動計画、事故報告など 様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービ ス向上に活かせるよう心掛けている。会議内容につい てはホーム内2か所に掲示し家族やスタッフに周知し ている。家族の参加も促している。 (外部評価) 運営推進会議は、家族や区長、民生委員、防災士、町 職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、小規 模多機能型事業所と合同で開催している。会議では、 利用状況や活動報告を行うほか、当面の課題について 協議し、参加者からの情報や意見を聞いて運営に活か している。議事録は家族用掲示板及び職員室に掲示し 共有できるよう工夫している。	会議に家族が参加できるよう全ての家族に案内を出し てきたが、期待した成果が得られていない現状があ る。開催時刻の検討や、開催方法について家族の要望 を確認するなど工夫し運営する取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町保険課や地域包括支援センターとは定期的に交流 し、困ったときは助けていただいている。 (外部評価) 運営推進会議に町職員が参加して、事業所の状況を理 解してもらっており、介護保険制度について情報を得 るなど、相談できる関係を築いている。地域包括支援 センターの要請にこたえてフォーラムで実践報告を行 い、好評を得ている。また、毎月介護相談員の訪問が あり、利用者の話を聴いてくれており、聴き取った 要望は実現に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてカンファレンスの際勉強会を行いス タッフ全員が正しい理解をできるようになっている。 病院入院中は4本柵使用だった方も、見守りで拘束解 消できた。 (外部評価) 「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」 について勉強会を持ち、全ての職員が共通に理解をす ることができた。管理者は言葉による拘束についても 考慮して、基本的に丁寧語で話しかけるよう指導して いる。施錠については玄関は日中開錠しているが、階 段からの転落を防止するためユニット入り口は施錠す る時間帯がある。骨折治療後退院した利用者には、緊 急時等に鈴で合図することや夜間帯は扉を閉めないこ とを家族に了解してもらっており、拘束をしないケア を実践している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できているとは言えないが、虐待はしてはいけないことということはスタッフ全員が理解しており、行っていない。優しい介護を目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がなく今後勉強していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行い、理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内に意見箱を設置しているが、実績はなくご家族や地域の方も直接管理者やスタッフに意見を言うことができている。意見については運営に反映できるよう努めている。 (外部評価) 管理者は良好な人間関係が支援の基本と考え、利用者や家族との意思疎通を心がけ、良い人間関係を持つよう努めている。職員は家族面会時に声をかけて状況を伝え、意向や要望を聞いている。状態に変化がある時はその都度連絡し、毎月郵送する請求書にコメント欄を設け、担当者が利用者の様子を書いて送っている。利用者や家族から聞いた要望や苦情は、職員全員で話し合い改善するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者に伝えている。 (外部評価) 職員は日常業務の中で意見や提案をその都度ユニットリーダーに提案し、話し合ってケアに反映させている。業務上の問題は管理者とユニットリーダーが協議して対応したり、代表者に意見を伝え検討している。管理者は研修の重要性を認識しており、業務の調整を行いながら、適宜研修が受けられるよう配慮し質の向上を図りたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場環境や条件について向上できるよう努めているが、スタッフ全員が満足できているとは言えない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内研修は実施できたが施設外研修の参加があまりできなかったため、今後計画していく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流ができるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し信頼関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族の希望や思いを十分に聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時には暫定ケアプランを策定し、必要な支援が提供できるよう努めている。 利用者とスタッフは1対1でかかわることも多い。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の話し合いを大切にし生活の場として暮らせるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族来所の際は情報提供を心掛けている。良いことも悪いこともあるまま伝えることが信頼につながっているように思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や近所の人が時々面会に来られるが、出かけていくことはあまりない。 面会に来られた時はゆっくり過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価) 入居時に生活歴を聴取し、センター方式に沿って馴染みの関係を把握している。民生委員の協力を得て地区のサロンに参加したり、地区の盆踊り大会で声をかけてもらって一緒に踊ったりして楽しんでいる。また、入居前に小規模多機能型事業所を利用していた利用者は、通いのサービスと一緒に参加することもあり、馴染みの関係が途切れないよう柔軟に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係でいられるよう職員が潤滑油となるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人一人の意向や気持ちを把握できるよう努めている。利用者の気持ちがわからないときは本人の気持ちになって考えるようにしている。	
			(外部評価) 職員は時間を見計らってなるべく個別に話しを聴く時間を持つよう心がけている。気持ちを表現することが困難な利用者には日常の会話の中から想像、推察し利用者の思いはなるべく実現できるよう努めている。 「家のことが心配」と訴える利用者に対し、家族の協力を得て自宅に帰る支援をするなど安心できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常的に話をする中で本人から話を聞き出したり、家族から聞いたことなどをスタッフで共有できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が毎月モニタリングを行い見直しをしている。 プラン変更時にはなるべく家族を交えたカンファレンスを持つようにしている。	
			(外部評価) 初回の介護計画は計画担当者が作成し、1か月間暫定で実施した後カンファレンスを開き見直しを行っている。2回目以降は、担当者がモニタリングを行い、家族にサービス担当者会議に参加してもらって意見を聞くようにしている。また、利用者の状態の変化がある時はその都度見直すようにしており、それ以外の場合は状態に応じて期間を決めて対応している。また、来訪が困難な家族には意見欄を設けた書類を郵送するなどし承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添った記録を心掛けておりモニタリングに活かせるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。 小規模多機能のお出掛けに便乗したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の把握は難しく地域との協働は難しいところである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は在宅から継続してもらっている。情報 交換を密にし、適切かつ迅速な医療が受けられるよう 心掛けている。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援 している。現在4名の医師が定期的に来訪し診療を行 うほか、看護職員3名が配置されており、日常的な健 康管理や緊急時の医療措置を適切に受けることができ る。また、専門科受診については、家族が付き添うこ とを基本としているが、家族が対応できない場合は職 員が付き添っており、受診後は健康状態を書面にして 家族に渡すとともに、主治医にも情報が伝わるよう努 めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは所属に関係なく看護職員に相 談できる協力体制ができている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は病院の連携室と連絡をとりスムーズに 退院できるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には簡単な意向確認をしている。状態に応じて 家族・医師・職員とで相談し方針を決定している。	
			(外部評価) 法人内で統一された看取り指針があり、利用者や家族 の要望に応じて看取りを行う方針で、過去2名の利用 者の看取りを行っている。入居時に利用者と家族に意 向を確認すると共に、重度化した場合は家族、医師、 職員が終末期のケア方針について話し合っている。往 診医による24時間医療連携体制が整っており、管理 者を通して医師との連携も取れているため利用者と家 族は安心である。家族と協力して穏やかな看取りを 行った経験は、職員にとっても達成感につながってい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は実施できていない。今後施設内外での研修参加をする予定。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を行っている。夜間想定 of 訓練も行った。地域の方にも参加していただいたが、今後は消防団や家族にも参加していただき、実際に搬送の訓練もしていく予定。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、繰り返し訓練することで自然に身体が動くようになることが重要と考えている。また、災害時には近所の協力が不可欠であると認識しており、緊急連絡網に区長と民生委員に依頼して入ってもらい、訓練の際には家族や消防団、近所の住民の参加をお願いしている。今後、車椅子レベルの利用者を階下に避難させる訓練を実際に行う予定である。また、備蓄品は長期保存可能な食品等を整備し台所に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、思いやりの気持ちを大切にしている。管理者は言葉遣いに気を付けるよう指導しており、トイレ誘導時は小声で声かけをし、利用者と呼ぶ時はさん付けで呼ぶよう配慮している。帰宅願望が強く落ち着かない利用者に対し、呼び名を変えることで穏やかになることもあり、利用者の状況に配慮した対応をするとともに入浴時は同性介助を心がけるなど支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望をうかがうようにしているが、入浴や食事などホームの都合で決めているところがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に近所の理容師さんに来てもらっている。おしゃれとまではいかないが、清潔を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや食器の片づけなどできることはなるべく一緒にしていただいている。 誕生日にはおすしとケーキでお祝いするようにしている。	
			(外部評価) 管理者が献立を作り、調理師免許を持った職員が四季折々の料理を楽しめるよう各ユニットで調理をしている。利用者はお盆を拭くなど、できることを職員と一緒にやっている。誕生日には個別に希望を聞いて好みの赤飯や寿司を作って祝うほか、おせちや花見弁当、クリスマスケーキなどの行事食を用意するなど対応している。利用者の嚥下状態に合わせて食事形態も工夫している。また、職員は利用者と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気を楽しそうに会話しながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食食事摂取量のチェックを行い、少ない場合は食べれる工夫をしている。水分摂取が少ない場合は飲みやすいものの提供をしたり、ゼリーにしたりと工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは習慣となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人に応じた排泄ケアができるよう支援している。徐々にレベルが低下してくるが、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 各ユニットごとに3か所トイレがあり、跳ね上げ式手摺やシャワー設備が整えられている。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜共にトイレで排泄できるよう支援に努めている。職員の提案で利用者の状態に合った排泄用品を選択し、気持ち良く過ごせるよう工夫している。また、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者は、鈴の音が聞こえたら介助に行くなど、自立排泄ができるよう支援している。職員の根気よいトイレ誘導により、昼間はトイレで排泄ができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることで便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ホームの都合で予定しているが、柔軟に対応している。なるべく気持ちよく安心安全に入浴していただくよう心掛けている。	
			(外部評価) 冬は3日に1回、夏は2日に1回の入浴を基本とし、利用者の身体状況に合わせて一般家庭浴と機械浴を併用しながら安全に入浴ができるよう支援している。また、終末期にある利用者は清拭での対応が基本であるが、状態が安定している時にはできる限り湯船に浸かれるように対応するなど、利用者が少しでも気分がよくなるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中は活動していただくようにしているが、希望に応じて居室で休んでもらったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認は何重にも行い誤薬がないよう努めている。薬の目的や副作用については個々で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションを行う際は個々の得意なことを取り入れるようにしている。1日1回笑えるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力で行きたいところへ行ける人もいる。ホームでは行けるところは限られるが、なるべく希望に沿って外出できるよう努めている。 (外部評価) 気候の良い時期はなるべく外出ができるよう支援を心がけており、事業所の周辺を少人数ずつ分かれて散歩に出かけ近隣住民と挨拶を交わしている。職員がスーパーに買い物に行く際に利用者と一緒に行ったり、法人の福祉車両を活用して季節の花見物に出かけている。また、小規模多機能型事業所の利用者と共に遠出することもある。	居室が2階にあるため、閉じこもりがちにならないよう様々な工夫をして外出の機会を確保しようと努めている。利用者の重度化により、外出支援ができる職員の確保が困難になることが予測されるため、外出ボランティアの協力が得られるよう検討する等、日常的な外出が実現することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が家族の声が聴きたい時には電話をつなぎ話してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節感のある壁面飾りや置物を置くようにしている。壁面はなるべく利用者とともに作成したものを取り入れている。共用の場所は毎日掃除をして気持ちよく生活できるよう支援している。 (外部評価) 中央にある共有スペースには天窓が4か所あり、屋内に居ながら空を見ることができのほか、オープンキッチンと椅子席、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には職員と共同で作成した大きな桜の木の貼り絵やクラフト作品等の飾りつけがされ、季節感を出している。また、感染症予防のため加湿器などを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各々テーブルの自席に座ったりソファに座ったりしている。時には誘導し利用者同士の交流ができるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は自由に配置し飾っていただいている。場合によってはクローゼットが開けられないようにしないといけないこともあるが、できるだけ馴染みの物が置けるようにしている。 (外部評価) 居室には電動ベッドとエアコン、クローゼットが備え付けられており布団などを収納することもできる。利用者は使い慣れた籐家具やテレビ等を持ち込み、居心地良く配置している。また、壁には職員が寄せ書きした誕生日祝いの色紙や家族写真、娘から届いた優しい言葉がつづられた絵手紙などが飾られ心和む空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレに張り紙をしたり居室に名前を貼ったり迷わず自分で行けるように配慮している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500094
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホームひまわりのたね
所在地	愛媛県伊予郡松前町昌農内347-1
自己評価作成日	平成 28年 3月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けています。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行うようにしています。利用者様とご家族様が笑顔でいられるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目を迎える事業所は、新旧住宅が混在する田園地帯に立地し、階下に小規模多機能型事業所がある。「焦らず、怒らず、諦めず」を理念に掲げ、大家族を目指したケアに努めている。地元住民の理解を得るため地道な努力を積み重ね、信頼関係を築いてきた。盆踊りや防災訓練、小学生の相撲大会等地元行事に利用者と共に参加し、散歩中の挨拶も欠かさないよう努めた結果、花や野菜の差し入れをしてくれる地域住民もできた。また、往診医と看護師の連携のもと2名の利用者の看取りを行い、職員にとっても貴重な体験になっている。現在も終末期にある利用者に家族と協力してケアを行っている。職員は自由に意見を出し合い、利用者が安心して今日を気持ち良く過ごし、笑ってもらえるよう支援に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりのたね

(ユニット名) 柿ユニット

記入者(管理者)

氏 名 松田加代子

評価完了日 平成 28年 3月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を基本に、優しい 介護の実践に努めている。昌農内の大家族としてリビ ングに掲示し確認できるようにしている。	
			(外部評価) 「焦らず・怒らず・諦めず」を理念に掲げ、「昌農内 の大家族」を目指したケアに努めている。職員は理念 を念頭に利用者が安心できるよう声かけを行い、今日 を気持ち良く過ごし、1日1回は笑えるよう支援に努 めている。また、利用者のペースに合わせて、諦めな い支援を続けることを大切にしている。理念は誰に も目につくように大きく書きリビングに掲示してい る。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 施設の行事に地域の方をお招きし、地域の行事には利 用者とスタッフが参加できるよう努めている。可能な 限り散歩に出るようにしており、地域の方との触れ合 いのきっかけとなれればと思っている。	
			(外部評価) 町内会に加入して、地域で行われる行事に積極的に参 加している。コミュニティ広場で行われる小学生の相 撲大会やどんど焼き、運動会、盆踊り、地区防災訓練 に参加し、地域の人々と交流している。また、クリス マスに幼稚園児が訪れて踊りを披露、区長さんがサン タ役を務めてくれた。事業所でも夏祭りを開催し、近 所にチラシを配布して参加してもらった。散歩時には 近所の人と挨拶を交わし切花をいただくこともある。	地元住民の理解を得るため地道な努力を積み重ね、信 頼関係を築いてきた実績は高く評価できる。当初は あった小学生との交流の再開や、地域のボランティア の申し出を具体的に実現していく取組みを行い、引き 続き多様な交流が継続することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の中でスタッフが利用者の介護を行うことが認知 症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議ではホームの活動報告と活動計画、事故報告など 様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービ ス向上に活かせるよう心掛けている。会議内容につい てはホーム内2か所に掲示し家族やスタッフに周知し ている。家族の参加も促している。 (外部評価) 運営推進会議は、家族や区長、民生委員、防災士、町 職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、小規 模多機能型事業所と合同で開催している。会議では、 利用状況や活動報告を行うほか、当面の課題について 協議し、参加者からの情報や意見を聞いて運営に活か している。議事録は家族用掲示板及び職員室に掲示し 共有できるよう工夫している。	会議に家族が参加できるよう全ての家族に案内を出し てきたが、期待した成果が得られていない現状があ る。開催時刻の検討や、開催方法について家族の要望 を確認するなど工夫し運営する取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町保険課や地域包括支援センターとは定期的に交流 し、困ったときは助けていただいている。 (外部評価) 運営推進会議に町職員が参加して、事業所の状況を理 解してもらっており、介護保険制度について情報を得 るなど、相談できる関係を築いている。地域包括支援 センターの要請にこたえてフォーラムで実践報告を行 い、好評を得ている。また、毎月介護相談員の訪問が あり、利用者の話を聴いてくれており、聴き取った 要望は実現に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてカンファレンスの際勉強会を行いス タッフ全員が正しい理解をできるようになっている。 病院入院中は4本柵使用だった方も、見守りで拘束解 消できた。 (外部評価) 「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」 について勉強会を持ち、全ての職員が共通に理解をす ることができた。管理者は言葉による拘束についても 考慮して、基本的に丁寧語で話しかけるよう指導して いる。施錠については玄関は日中開錠しているが、階 段からの転落を防止するためユニット入り口は施錠す る時間帯がある。骨折治療後退院した利用者には、緊 急時等に鈴で合図することや夜間帯は扉を閉めないこ とを家族に了解してもらっており、拘束をしないケア を実践している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できているとは言えないが、虐待はしてはいけないことということはスタッフ全員が理解しており、行っていない。優しい介護を目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がなく今後勉強していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行い、理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内に意見箱を設置しているが、実績はなくご家族や地域の方も直接管理者やスタッフに意見を言うことができている。意見については運営に反映できるよう努めている。 (外部評価) 管理者は良好な人間関係が支援の基本と考え、利用者や家族との意思疎通を心がけ、良い人間関係を持つよう努めている。職員は家族面会時に声をかけて状況を伝え、意向や要望を聞いている。状態に変化がある時はその都度連絡し、毎月郵送する請求書にコメント欄を設け、担当者が利用者の様子を書いて送っている。利用者や家族から聞いた要望や苦情は、職員全員で話し合い改善するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者に伝えている。 (外部評価) 職員は日常業務の中で意見や提案をその都度ユニットリーダーに提案し、話し合っケアに反映させている。業務上の問題は管理者とユニットリーダーが協議して対応したり、代表者に意見を伝え検討している。管理者は研修の重要性を認識しており、業務の調整を行いながら、適宜研修が受けられるよう配慮し質の向上を図りたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場環境や条件について向上できるよう努めているが、スタッフ全員が満足できているとは言えない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内研修は実施できたが施設外研修の参加があまりできなかったため、今後計画していく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流ができるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し信頼関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族の希望や思いを十分に聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時には暫定ケアプランを策定し、必要な支援が提供できるよう努めている。 利用者とスタッフは1対1でかかわることも多い。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の話し合いを大切にし生活の場として暮らせるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族来所の際は情報提供を心掛けている。良いことも悪いこともあるまま伝えることが信頼につながっているように思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や近所の人が時々面会に来られるが、出かけていくことはあまりない。 面会に来られた時はゆっくり過ごせるよう配慮している。 (外部評価) 入居時に生活歴を聴取し、センター方式に沿って馴染みの関係を把握している。民生委員の協力を得て地区のサロンに参加したり、地区の盆踊り大会で声をかけてもらって一緒に踊ったりして楽しんでいる。また、入居前に小規模多機能型事業所を利用していた利用者は、通いのサービスと一緒に参加することもあり、馴染みの関係が途切れないよう柔軟に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係でいられるよう職員が潤滑油となるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人一人の意向や気持ちを把握できるよう努めている。利用者の気持ちがわからないときは本人の気持ちになって考えるようにしている。	
			(外部評価) 職員は時間を見計らってなるべく個別に話しを聴く時間を持つよう心がけている。気持ちを表現することが困難な利用者には日常の会話の中から想像、推察し利用者の思いはなるべく実現できるよう努めている。 「家のことが心配」と訴える利用者に対し、家族の協力を得て自宅に帰る支援をするなど安心できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常的に話をする中で本人から話を聞き出したり、家族から聞いたことなどをスタッフで共有できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が毎月モニタリングを行い見直しをしている。 プラン変更時にはなるべく家族を交えたカンファレンスを持つようにしている。	
			(外部評価) 初回の介護計画は計画担当者が作成し、1か月間暫定で実施した後カンファレンスを開き見直しを行っている。2回目以降は、担当者がモニタリングを行い、家族にサービス担当者会議に参加してもらって意見を聞くようにしている。また、利用者の状態の変化がある時はその都度見直すようにしており、それ以外の場合は状態に応じて期間を決めて対応している。また、来訪が困難な家族には意見欄を設けた書類を郵送するなどし承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添った記録を心掛けておりモニタリングに活かせるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。 小規模多機能のお出掛けに便乗したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の把握は難しく地域との協働は難しいところである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は在宅から継続してもらっている。情報 交換を密にし、適切かつ迅速な医療が受けられるよう 心掛けている。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援 している。現在4名の医師が定期的に来訪し診療を行 うほか、看護職員3名が配置されており、日常的な健 康管理や緊急時の医療措置を適切に受けることができ る。また、専門科受診については、家族が付き添うこ とを基本としているが、家族が対応できない場合は職 員が付き添っており、受診後は健康状態を書面にして 家族に渡すとともに、主治医にも情報が伝わるよう努 めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは所属に関係なく看護職員に相 談できる協力体制ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は病院の連携室と連絡をとりスムーズに 退院できるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には簡単な意向確認をしている。状態に応じて 家族・医師・職員とで相談し方針を決定している。	
			(外部評価) 法人内で統一された看取り指針があり、利用者や家族 の要望に応じて看取りを行う方針で、過去2名の利用 者の看取りを行っている。入居時に利用者と家族に意 向を確認すると共に、重度化した場合は家族、医師、 職員が終末期のケア方針について話し合っている。往 診医による24時間医療連携体制が整っており、管理 者を通して医師との連携も取れているため利用者と家 族は安心である。家族と協力して穏やかな看取りを 行った経験は、職員にとっても達成感につながってい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は実施できていない。今後施設内外での研修参加をする予定。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を行っている。夜間想定 of 訓練も行った。地域の方にも参加していただいたが、今後は消防団や家族にも参加していただき、実際に搬送の訓練もしていく予定。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、繰り返し訓練することで自然に身体が動くようになることが重要と考えている。また、災害時には近所の協力が不可欠であると認識しており、緊急連絡網に区長と民生委員に依頼して入ってもらい、訓練の際には家族や消防団、近所の住民の参加をお願いしている。今後、車椅子レベルの利用者を階下に避難させる訓練を実際に行う予定である。また、備蓄品は長期保存可能な食品等を整備し台所に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、思いやりの気持ちを大切にしている。管理者は言葉遣いに気を付けるよう指導しており、トイレ誘導時は小声で声かけをし、利用者と呼ぶ時はさん付けで呼ぶよう配慮している。帰宅願望が強く落ち着かない利用者に対し、呼び名を変えることで穏やかになることもあり、利用者の状況に配慮した対応をするとともに入浴時は同性介助を心がけるなど支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望をうかがうようにしているが、入浴や食事などホームの都合で決めているところがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に近所の理容師さんに来てもらっている。おしゃれとまではいかないが、清潔を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや食器の片づけなどできることはなるべく一緒にしていただいている。 誕生日にはおすしとケーキでお祝いするようにしている。	
			(外部評価) 管理者が献立を作り、調理師免許を持った職員が四季折々の料理を楽しめるよう各ユニットで調理をしている。利用者はお盆を拭くなど、できることを職員と一緒にやっている。誕生日には個別に希望を聞いて好みの赤飯や寿司を作って祝うほか、おせちや花見弁当、クリスマスケーキなどの行事食を用意するなど対応している。利用者の嚥下状態に合わせて食事形態も工夫している。また、職員は利用者と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気を楽しそうに会話しながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食食事摂取量のチェックを行い、少ない場合は食べれる工夫をしている。水分摂取が少ない場合は飲みやすいものの提供をしたり、ゼリーにしたりと工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは習慣となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人に応じた排泄ケアができるよう支援している。徐々にレベルが低下してくるが、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 各ユニットごとに3か所トイレがあり、跳ね上げ式手摺やシャワー設備が整えられている。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜共にトイレで排泄できるよう支援に努めている。職員の提案で利用者の状態に合った排泄用品を選択し、気持ち良く過ごせるよう工夫している。また、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者は、鈴の音が聞こえたら介助に行くなど、自立排泄ができるよう支援している。職員の根気よいトイレ誘導により、昼間はトイレで排泄ができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることで便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ホームの都合で予定しているが、柔軟に対応している。なるべく気持ちよく安心安全に入浴していただくよう心掛けている。	
			(外部評価) 冬は3日に1回、夏は2日に1回の入浴を基本とし、利用者の身体状況に合わせて一般家庭浴と機械浴を併用しながら安全に入浴ができるよう支援している。また、終末期にある利用者は清拭での対応が基本であるが、状態が安定している時にはできる限り湯船に浸かれるように対応するなど、利用者が少しでも気分がよくなるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの思いのままに休息している。車椅子生活の方はなるべく食後は横になって休息していただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認は何重にも行い誤薬がないよう努めている。薬の目的や副作用については個々で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションを行う際は個々の得意なことを取り入れるようにしている。1日1回笑えるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力で行きたいところへ行ける人もいる。ホームでは行けるところは限られるが、なるべく希望に沿って外出できるよう努めている。 (外部評価) 気候の良い時期はなるべく外出ができるよう支援を心がけており、事業所の周辺を少人数ずつ分かれて散歩に出かけ近隣住民と挨拶を交わしている。職員がスーパーに買い物に行く際に利用者と一緒に行ったり、法人の福祉車両を活用して季節の花見物に出かけている。また、小規模多機能型事業所の利用者と共に遠出することもある。	居室が2階にあるため、閉じこもりがちにならないよう様々な工夫をして外出の機会を確保しようと努めている。利用者の重度化により、外出支援ができる職員の確保が困難になることが予測されるため、外出ボランティアの協力が得られるよう検討する等、日常的な外出が実現することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が家族の声が聴きたい時には電話をつなぎ話してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節感のある壁面飾りや置物を置くようにしている。壁面はなるべく利用者とともに作成したものを取り入れている。共用の場所は毎日掃除をして気持ちよく生活できるよう支援している。 (外部評価) 中央にある共有スペースには天窓が4か所あり、屋内に居ながら空を見ることができのほか、オープンキッチンと椅子席、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には職員と共同で作成した大きな桜の木の貼り絵やクラフト作品等の飾りつけがされ、季節感を出している。また、感染症予防のため加湿器などを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各々テーブルの自席に座ったりソファに座ったりしている。時には誘導し利用者同士の交流ができるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は自由に配置し飾っていただいている。場合によってはクローゼットが開けられないようにしないといけないこともあるが、できるだけ馴染みの物が置けるようにしている。 (外部評価) 居室には電動ベッドとエアコン、クローゼットが備え付けられており布団などを収納することもできる。利用者は使い慣れた籐家具やテレビ等を持ち込み、居心地良く配置している。また、壁には職員が寄せ書きした誕生日祝いの色紙や家族写真、娘から届いた優しい言葉がつづられた絵手紙などが飾られ心和む空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレに張り紙をしたり居室に名前を貼ったり迷わず自分で行けるように配慮している。	